

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 育ち第3事業所		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 16日		～ 2025年 1月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	児発：14名 放デイ：20名	(回答者数) 児発：14名 放デイ：19名
○従業者評価実施期間	2024年 12月 16日		～ 2024年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	児発：8名 放デイ：8名	(回答者数) 児発：8名 放デイ：8名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	PT/OT/STの専門的な捉え方と、保育士・児童指導員の専門的な子どもとの関わり方を常に出し合い、共に検討する時間を設け、個別・小集団に関わらず連携を図っている。	個別・小集団での様子や気づき、取り組み等をフィードバックする時間を毎日設けており、職員全員でより良い支援に繋げている。	口頭や紙面でのフィードバックに加え、実際の活動の道具や様子を見える化して伝える等、各々の情報をさらに伝え合う環境づくりを行い、個々の意識を高めていく。
2	法人全体でも常に向上心を持ち、より良い支援に繋げるため、3事業所間での連携や情報共有を意識して行っている。	全事業所が集まり、毎月会議・研修・勉強会・交流会の場等で各々の疑問点を出し合う等、支援の統一化を図っている。	仕事として数多くの外部の研修会へも積極的に参加できる体制を整えている。また、研修参加後は、職員へフィードバックすることで全職員のスキルアップへと繋げている。
3	4つの活動部屋があり、それぞれの目的に合わせて使い分けることが出来る環境がある。(のびのびと運動が出来る広々とした部屋や、集中して活動に取り組める個別活動室など。)	【児発】活動内容や発達年齢に分けるなど、様々な目的でグループ分けをして活動に取り組むことで、各々の利用児に合わせた活動内容を考え、実施することができている。 【放デイ】上記工夫だけでなく、宿題も含む机上活動に集中して取り組めるよう、利用児それぞれに学習機を提供したり、パーテーション等で仕切ることや部屋を分けることによる環境づくり等行っている。	各々の部屋移動が、よりスムーズになるよう導線の確認、リスク管理の再検討を行う時間をミーティングの中に設けている。

	事業所の弱み(※) と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所等、地域社会での他の子どもと住民との交流が図れていないこと。	地域住民や子どもを交えた交流会等のイベントは行っていない。随時見学等は受け付けているものの、地域住民への発信方法はSNSやホームページでの発信に留まっている。	【児発】地域のイベントへの出席や、福祉館等へ行くことで、地域社会との交流の機会を取り入れていきたい。 【放デイ】上記だけでなく、来年度も今年度同様、事業所間交流を行い、普段関わることの出来ないお友達や職員と活動を共にすることができた。来年度も引き続き事業所間交流を継続していきたい。
2	各種マニュアルの整備は整い提示はしているものの、非常災害の発生に備えた対策をはじめ、保護者への周知等は完全ではない。	一人ひとりへの説明は時間を要する関係上、取り組みが難しかった。	マニュアル等はいつでも回覧可能である旨を、お便りやSNS等でも、これまで以上に発信していく。
3	保護者同士の交流の場を設ける回数が少ないこと。	年度初めに大まかなスケジュールを示すものの、就労の兼ね合いで不参加等、出席率が多いとは言えない。	スケジュール調整がしやすいよう早めの案内を心掛けたい。(年度初めに日程が決まった状態で案内する等。)来年度も保護者座談会を設け、その様子も事業所内のお便り等で、周知していきたい。